



発行所
札幌聖心女子学院
札幌市中央区宮の森2条16丁目10-1
TEL (011) 611-9231

五十四回生の皆さん、卒業おめでとう
ございます。

今、皆さんの胸の中には、これまでの
様々な思い出がよみがえってくることも
に、これから始まる新しい人生に向かう、
大きな期待で満ち溢れていることと思っ
ます。

昨年六月、コロナ禍の中で、オンライン
上とはなりましたが、一人ひとりと面談し
たことがまず思い出されます。札幌聖心
での学びによる自分の成長をどこに感じ
るのかを尋ねると、多くの人が、「ふり返
り」と「分かち合い」の大切さを語って
くれました。そして、かかわりについて、価
値観について学んだエンカウンタープログ
ラムSADDEでの学びがいかに大きかった
か、ということ、さらに持続可能な開発目
標SDGのめについて、自分には何ができ
るのかをアクションプランとして考え、次
の大学での学びも含めて、今後世界規模で
活動していきたい、と熱く語る姿が印象
的でした。皆さんの心が、そして魂が育っ
ている、強くそう感じました。
その言葉通り、皆さんは、学業をはじめ、
様々な活動すべてに真剣に取り組ままし

た。残念ながら今年度は、コロナ禍の二年
目、加えて体育館の使用中止という制約
の多い状況の中で、友愛セールの中止、聖
ソフィア祭のオンライン実施など、二年続
けて大変な年となってしまいました。しか
し、皆さんは、決してあきらめず、すべて
を前向きに捉え、聖ソフィア祭では、全校
生徒の一人ずつがリボンに見立てたマスキ
ングテープを色ごとに貼り、それをつなぎ

合せて一枚の絵に仕上げるリボンアート
で全校の心を一つにして、オンライン実施
という枠を超えた盛り上がりにつなげて
くれました。

また冬には、願っていたクリスマス・コ
ンサートの実施がコロナ禍で叶わない中、
前年度のクリスマス・ウィッシングの経験
を生かしながら、この時点でできる可能
性のあるものを冷静に識別し、「合唱」を
実現させ、全校生徒の心を一つにしてリ

ダーシップを發揮してくれました。あり
がとうございました。
このように現実をしつかり見据えた上
で、物事を多面的にとらえ、積極的に困
難な状況を乗り越えてできることを模索
し、識別して選択し、創り上げようとす
る皆さんの姿勢は、数々の表彰を受けた
アクションプランや、先日発表された卒業
研究にも表れていました。一人ひとりの誠
実な努力が確かな未来のための力を培い
ました。
今年度をふりかえる中でもうひとつの
大きな出来事は、二〇二三年度より札幌
聖心女子学院の新入生の募集を停止する
という決定が、学校法人聖心女子学院よ
り発表されたことでした。この学校で六
年間学びを進めてきた五十四回生の皆さ
らにとつては、大きな驚きと共に悲しみ
を感じたことと思います。
しかし皆さんはそうした中にあっても、
堅実に日々の生活と勉学に取り組む。同
時に他者を想う活動も忘れませんでした。
クリスマス・プラクティス期間中に、沈
黙を大切にして静けさを創り出し、自分
の内面を見つめながら、助けを必要とし
ている方々の叫びを聞くことも努め、ホー
ムレスの方々への支援と、コロナ禍の影響

無関心の闇に 希望のともしびをかかげて

校長 齊藤 隆 浩

で困窮する外国人の方々への支援を実現
させました。
その姿を見ていて、私はまさに今年度
の学校目標である「Seeds of Hope」
未来に芽吹く希望の種となろう」とい
うことが実現されていると感じました。
自分たちが自ら「希望の種」となり行動
力を發揮することで、周囲の助けを必要
としている人々の助けとなる「実」となっ
ていくことを皆さんの姿から改めて学び
ました。

札幌聖心女子学院では、皆さんに「世
界に目を向ける」ことを求めてきました。
今日、急激なグローバル化が進む一方で、
様々な国家間の対立や紛争、難民問題が
起きています。目の前の難しい課題の解
決に向けて、対話と共生がより重要となっ
ていきます。

フランシスコ教皇様が「無関心の闇が
拡がる」と形容された世界に、「分かち合
い」と「共生」の光をとますために菓立つ
皆さんは「希望の種」です。皆さんの中に
あるイエスの聖心(みこころ)の灯火は、い
つまでも燃え続けることと信じています。

これは、教皇様が回勅『ラウダート・シ』
の中で祈られている「無関心を遠ざけ、貧
しい人や弱い人を支え、ともに暮らす家
である地球を大切にできるように、私たち
の役割を示してください。」という言葉に
応えていく、素晴らしい姿です。
まさに現代の社会が必要としている希
望をもたらす皆さんの門出を祈りとも
にお祝いし、はなむけの言葉とします。

■ 高校卒業式 ■ 感謝の思い

二月五日(土)に第五十四回高等学校卒業証書授与式が行われました。校長先生からの卒業証書授与では卒業生一人ひとりの姿に、札幌聖心での様々な経験から多くの学びを得た思いが感じられました。卒業生代表の加世田さんの謝辞は、六年間の思い出を振り返ると共に、先生方や仲間に対する感謝の気持ちが溢れていました。途中で涙を流す卒業生も見られ、学年の絆の深さが伝わってきました。「コロナ禍で」とい

クリスマス・ウィッシング

テーマ ルクス(光)

十二月十八日(土)に、本校でも大切にしている行事のひとつであるクリスマス・ウィッシングを行いました。今年も昨年度同様オンラインでの実施となりましたが、全校で主イエスのご降誕をお祝いすることができました。今年のテーマは「ルクス」で、ラテン語で「光」という意味があります。私たちはクリスマスに「私たちの光」であるイエス様のご降誕を心からお祝いしました。コーラス部のハンドベル、高三による「O Come Emmanuel」

う言葉を式中に何度も耳にしましたが、コロナに負けず、常に試行錯誤しながらさまざまなことに挑戦していた上級生だと、改めて思いました。

私が入学してから五年間、年齢が一番近い皆様には委員会や部活動で相談ののつていただき、私は常に背中を追いかけて過ごしてきました。その優しく明るい姿、また何事にも全力で挑む姿は、下級生の私たちも大いに刺激を受けました。

五十四回生の皆様が卒業される事は残念でありませんが、今まで頂いた多くのアドバイスを忘れず、私も残りの一年を大事に過ごしていきたい

の歌声から始まり、タブローや手話、朗読、コーラス部の合唱、オーケストラ部の演奏、全校生徒での「Prophet Isaiah」の暗唱などが行われました。また、今年は新型コロナウイルス感染症対策をしながらではありますが、中学生は「きかせてください」を、高校生は「One Little Candle」を、そして全校で「Hallelujah」を歌うことができました。

私たちはクリスマス・ウィッシングまでの十日間、沈黙を守り静けさの中で、クリスマス・プラクティスを行いました。プラクティスを達成することができたクラスでは、通学生はお米を、寄宿生はカイロを持ち

いと強く感じた一日となりました。

(高二 吉田 桜)



寄り、ホームレスや難民の方々にお届けしました。全校で作上げた思い出深いクリスマス・ウィッシングを、こうして無事に終えることができましたことに感謝したいと思います。

(高二 菅原 花未)



「クリスマス・ウィッシング」カード
(作：高三 山岡 詩恵)

インターナショナル・デイ 二年ぶりの 留学生との交流

十二月二日(木)は、インターナショナル・デイでした。様々な国出身の十三名の留学生が来校し、同じ教室で一日を一緒に過ごしました。七時間目には交流会が行われ、姉妹会が企画したクイズで留学生の出身国の豆知識などを得ることができました。私のクラスにはインド出身のアーラブさんがいらつしやいました。インドでは東西南北の地域で文化が異なることなど、今まで知らなかったことを知ることができました。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で実施できなかったのですが、今年度は留学生との交流が実現して本当に嬉しく思います。今回は英語

圏でない国からの留学生が多く、今までにも増して貴重な経験になりました。

(高二 白石 志帆)

本に出会う

十一月十七日(水)に第六回課題研究ミートイニングが実施されました。今回の講師は、三年前まで本校で司書の先生として勤務されていた

新田裕子先生で、「本に出会う」というテーマのもと、図書館のあり方や図書館が抱える問題、学生の読書離れについてなど様々な観点からお話を伺いました。インターネットなどの情報化により学生の読書離れが深刻化している中、先生は「本は知識だけでなく精神的な学びや語彙力、コミュニケーション力などをつけ、私たちの可能性を広げてくれる」とおっしゃっていました。情報化が進む社会の中で生活している私



たちだからこそ、電子書籍や紙の本の、それぞれの良さを使い分けると同時に、インターネットなどを有効に使い、これからの学校生活に役立てていきたいと思いました。

(高一 福本あめり)

社会心理学への扉

十二月一日(水)に、第七回課題研究ミートイニングがオンラインで実施され、聖心女子大学・人間関係学科准教授の小城英子先生に、集団心理について教えていただきました。

「集団心理」とは、集団の中で個人が多数派に同調し、合理的な思考力や判断力が抑制されることで、集団全体として極端な行動を引き起こすことです。今回は、同調・逸脱・「黒い羊効果」(集団において、一人の存在が「厄介者」として扱われ、排除されること)による排除の論理など様々な視点から集団心理について考えることができました。

私は今回初めて社会心理について学びましたが、自分や人の行動を理解する手がかりになり、自分を客観的に見る事ができたため、とても興味を持ちました。今回学んだことを日常生活にも生かしていきたいです。

(高一 西 恵里奈)

英語漬けの五日間

高校一年グローバルクラス十三名は、十二月六日(月)〜十日(金)までの五日間、ニセコイングリッシュキャンプに参加しました。外国

人講師の先生と二名の留学生との交流を通して、英語でのディスカッションやスピーチのスキルを身につけ、同時に今の自分と向き合う良い機会となりました。自分は何をするのが好きなのか、高校卒業後は何をしたいのかなど、それぞれ考えを深めました。そして最終日には、将来の自分のために今できることや人生計画について、三分間のスピーチにまとめて発表をしました。スピーチでは、ジェスチャーをつけたり、目を見て話しをしたり、身につけたスキルを取り込みながら発表することができました。



コロナ禍でできることが減っている中、得ることができたこの実りを、学校生活や課外活動にも生かし、将来へとつなげていきたいと思いをしました。

(高一 原田 安珠)

学びを深める

私たち中学三年生は、十二月十日(金)に中学卒業研究発表会を行いました。二十五人全員が約一年間それぞれのテーマで学びを深め、良い発表を行うことができました。

今年度から、Googleスライドを使った発表で一人ひとりが見やすいスライド作りをし、六分以内の制限の中で、原稿を工夫して作成しました。それぞれがとても興味深い発表となりました。

私は、「なぜ公式の場でハイヒールを履く人が多いのか」というテーマで取り組みました。テーマを選んだ理由を考え、自分なりに仮説を立て、その仮説を確かなものにするために調べを進めていきました。私は、ハイヒールの美しさを改めて知ると共に、自分や周りの人の実体験を元に、深刻な問題点も知ることができました。研究を進めるにつれて色々な知識を得られ、楽しく取り組むことができました。

調べたことを自分なりに結論付けて考察にまとめることは、私たちの学びにとって必要な力となりました。最後に、この研究を完成させるにあたり、多方面で支えてくださったメンターの先生を始めとする多くの先生方に感謝申し上げます。(中三 笠井 紗妃)

全力でスポーツを
楽しむ!

球技
大会



十一月九日
(火)には中学
生、三十日
(火)には高校
生の球技大会
が、北海きた
えーるで開催
されました。
この日のた
めに体育の時
間に練習を重
ね、当日は全力でスポーツを楽しむ
ことができました。同時に、仲間と
協力して一つの物事に向かって努力
をする力と、その大切さを学びまし
た。昨年度は開催することができま
せんでしたが、今年度は先生方のご
尽力や保健体育委員会の努力と工夫
のもとに開催できたことに感謝いた
します。来年にはコロナウイルスが
終息し、応援の声が体育館中に飛び
交う球技大会になることを願ってい
ます。
(高一 杉本 磨子)

〈大会結果〉

中学

- 総合優勝……………中学二年生
- バスケットボール優勝……………中学二年生
- バレーボール優勝……………中学三年生
- 卓球優勝……………中学一年生
- ドッジボール優勝……………中学三年生
- 大玉転がし優勝……………中学二年生

高校

- 総合優勝……………高校三年SSクラス
- バスケットボール優勝……………高校三年SSクラス
- バレーボール優勝……………高校三年SSクラス
- 卓球優勝……………高校一年Gクラス

スキー学習

上達への一歩



一月二十四日
(月)、私たち中学
一年生から高校二
年生までがそろつ
て、盤溪スキー場
へスキー学習に
行つてまいりまし
た。事前に自分で
レベルを決めて、同じレベルの人達
と練習をすることで楽しく学ぶこと
ができました。普段あまりスキーを
しない人からスキーを得意としてい
る人まで、それぞれがのびのびとス
キーができたように思います。イン
ストラクターの方々が親身になって
スキーの技術を教えてくださつた
り、私たちが楽しめるように様々な
コースに連れて行ってくださつたり
しました。短い時間でしたが、ス
キーが上達したように感じることが
でき、充実した一日となりました。
(高一 村上 心)

受賞おめでとう

二〇二二年度、主なものを次にご紹
介します。

第27回在日本韓国入学生韓国語弁論大
会 在日韓国大使賞
高三G 山岡 詩恵

PDA全国高校即興型英語デイベート
合宿・大会2021 授業の部
準優勝 高一G 北村 和佳
原田 安珠

高文連 第22回英語弁論大会石狩支部
大会(動画審査)
5位 高一G 原田 安珠

奨励賞 高二G 大萱生琉衣
読売新聞社主催 第71回全国小・中学
生作文コンクール(北海道)
佳作 中一 鈴木 瑠葉

第67回青少年読書感想文全道コンクール
優秀賞 高二S 日良茉莉香
入選 高三G 若林 星渚

第67回札幌市読書感想文コンクール
佳作 高二S 白石 志帆
佳作 高一S 山本 桃香
北洋銀行・北海道放送 第49回中学生
作文コンクール

優秀賞 中三 福本 もも
日能研 第17回文学コンクール
奨励賞 中一 佐良士美胡

第18回北海道地区高校生中国語発表会
入門の部 優良賞 高一G 関根 凜子
高一G 原田 安珠
初級の部 優秀賞 高二G 福本あめり

令和3年度統計グラフ全道コンクール
佳作 中二 都筑 暖和
J S B A公認プロスノーボーダー認定
(プロ資格取得)
高一S 西 桃奈

令和3年度明るい選挙啓発作品展
札幌市中央区選挙管理委員会委員長賞
中二 高橋 菜乃葉

スィーツ甲子園 高校生スィーツレシ
ピ チャレンジ
一ツ星レシピ賞 高三G 齊藤 りこ

第60回全国高等学校生徒英作文コンテ
スト 2・3年の部
優秀賞 高二G 植木 望結

第23回高校生小論文コンクール
奨励賞 高三S 加世田 紗衣
JICA国際協力中学生・高校生エッ
セイコンテスト2021

国際協力特別賞 高二G 福本あめり
English Camp in北星 Online 2021
英語プレゼンテーション(動画)コンテスト
Hokusei Prize (Overall Best)
チーム「5 stars」
高一G 北村 和佳

斉藤 美慶・原田 安珠
平塚 実杜紀・村上 心
第4回持続可能な世界・北海道高校生
コンテスト 総合探究部門
最優秀賞「SDGs for 菌(びー)」
高三S 遠藤 彩奈 菅田 真千

第59回全国中学校スキー大会アルペン
競技 女子スラローム(SL)
8位入賞 中二 石丸 り子